

日本原水協FAXニュース

発行:原水爆禁止日本協議会 電話:03-5842-6031 2011年
FAX:03-5842-6033 Eメール:antiatom55@hotmail.com 4月15日

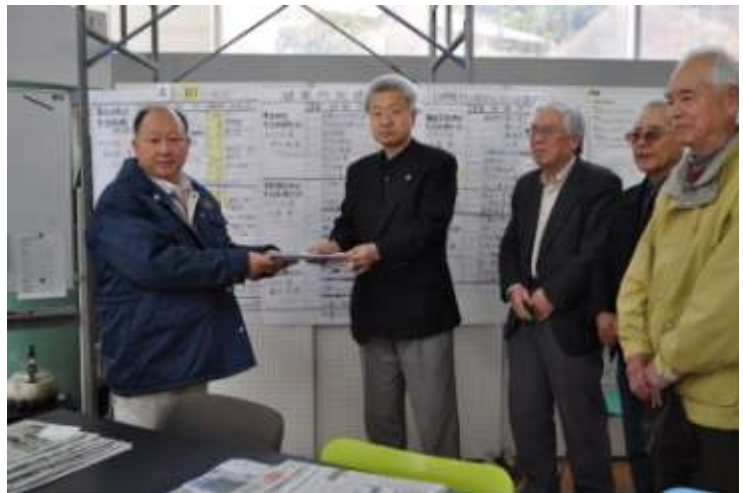
日本原水協
岩手県原水協

三陸6自治体に訪問、お見舞いと激励

日本原水協と岩手原水協は4月12日と13日、地震と津波の被害が甚大な三陸の6つの自治体を訪問し、全国、世界から寄せられたお見舞い金とちひろカレンダーをお渡しして懇談しました。田中章史事務局員のレポートです。

この行動には岩手自治労連のご協力をいただき、陸前高田市（総務部長）、大船渡市（主幹）、釜石市（副市長）、大槌町（副町長・町長が亡くなって町長代行）、山田町（副町長）、宮古市（副市長）と、どの自治体でも副首長や総務部長などが対応していただきました。

陸前高田市は職員296人中68人が亡くなり（臨時・嘱託職員を入れると100人を超える）、釜石市では400人の職員のうち100人が住宅を流され、大槌町では町長と管理職など33人が流され、半数の人はいまだ不明、山田町は火災もあり職員180人の内80数人の家が無くなっています。どこも庁舎も壊れるなどの中で、不眠不休で奮闘されています。



▲釜石市副市長（左）へ募金を手渡す田中事務局員。右から釜石・大槌地区原水協の足立行雄会長、菊池義一事務局員、津村岩手県原水協事務局員



大槌町役場周辺も津波の被害でズタズタに

懇談では、行政事務の出来る職員をもっと派遣して欲しい。まだまだ物資が足りない。住民の願いは住宅で仮設住宅を早く作りたいが場所がない。漁業の町なので浜ににぎわいがないとダメだ。水産都市として再生させたいなどの要望と国の予算措置を求めるとともに、政府に対する厳しい批判や要求が口々に語られました。

またもう一つの心配ごととして福島原発事故や放射能の影響などについての質問もあり、海の汚染が心配だとの声が強く出されました。

原水協からは、東京と阪神の港を整備するため5500億円もの事業が国会で強行可決されたが、この予算を三陸の港と漁業再生に使うべきことや、被爆者の支援と核兵器禁止・廃絶の運動を進めてきた団体として、引き続き被災者の皆さんの支援と平和な未来を築くために力を合わせたいこと、8月には原水爆禁止世界大会を開催し、5月からは、被災者支援と自然エネルギーへの転換をスローガンに加えて平和行進も行うことを話しました。

地域原水協の中核を担う、自治労連単組と民商も訪問

自治体訪問と合わせて、地域原水協の中核を担ってきた自治労連傘下の労組や民商も訪問し激励。自らも被災しながら大奮闘していました。平和、核兵器廃絶の運動も自治体当局をはじめ大きな信頼と蓄積があることを実感しました。

盛岡市をスタートし、沿岸沿いに陸前高田市から宮古市まで2日間で350キロ北上しました。1カ月たっても津波によるがれきが散乱し、防潮堤が砕かれ、線路は曲げられ、家々は土台だけ残してすべて流され、電柱が根こそぎ倒され、そして大槌町や山田町では火災が発生するなど目を覆う惨状は、焦土と化した広島・長崎や空襲被災地と同じ状況で言葉を失いました。



山田町の漁港には船が岸壁に乗り上げていました。

被災地でも平和行進し、世界大会に代表を送りたい

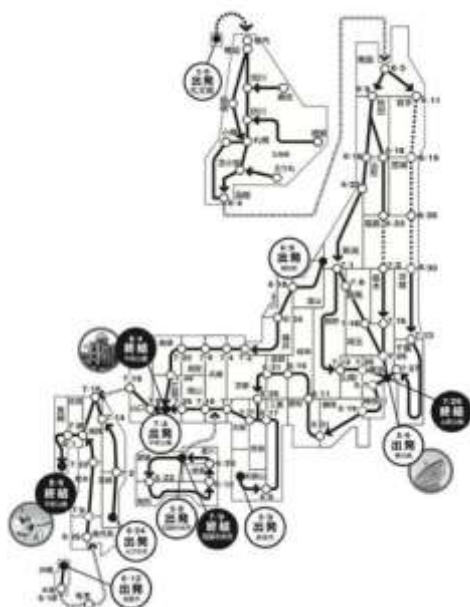
岩手原水協の津村喬事務局長は、「今年の平和行進、世界大会を被災地でどうとりくむかは重要な課題だ。平和行進は、被災地復興、被災者支援を前面に掲げ、地元の現状、住民の気分・感情も考慮したとりくみを検討したい。被災地での行進、行動には他地域、中央からも支援に入ることを要請したい」と語っています。

東日本大震災、福島原発事故 支援募金 **続報**

青森県八戸原水協 17,477円／葛飾原水協 3,000円／兵庫県芦屋原水協・笠間順子 3,276円／福岡県糸島原水協 19,774円／ディビット・ブロウニング（イギリス・個人）30ポンド（3,979円）／大久保なつみ、米多健吾（株式会社きかんし）2,000円 ご強力に感謝します。

募金総額 **189万6371円** (3月17日～4月15日)

2011年国民平和行進スタート間近



2011年国民平和行進は、新しくスタートした「核兵器全面禁止のアピール」署名キャンペーンをすべての市区町村にひろげ、核兵器禁止の大きな世論を築く行進として、また東日本大震災の被災者支援、原子力エネルギー依存から自然エネルギーへの転換を広くアピールしながら全国11コースをつなぎます。

5月6日に第五福竜丸展示館前で行う出発集会（東京・夢の島）では、核兵器禁止の世論を広げる決意や被災地からの訴えがあります。また、1日目の行進の中では、東日本大震災による津波で被災した千葉県旭市の生花生産者の栽培しているガーベラを販売して収益を被災地へ募金することになっています。21万羽おりづるプロジェクトにもとりくみます。

平和行進の実施要綱をはじめ、全国コース地図、各コースの日程、グッズ、通し行進者の決意など、日本原水協ホームページの特設ブログに随時アップしていきます。

http://www.antiatom.org/peace_march/